

入間市長賞

私たちの暮らしを支える税金

東金子中学校 三年 入江 悠斗

税金はこんな身近に使われていた。

先日、私が風邪をひいて病院を利用した時、今までは親がついてきてくれていたため自分で言うことはなかったが、初めて自分一人で行ったので、会計を自分で行なった。そこで私は会計が0円だということに驚いた。家に帰って調べてみると、中学生までの子供は無料、そしてお年寄りには割引ということが分かった。その制度がなぜ成り立っているのか、それは税金のおかげだった。

そして、それ以外にも身の回りでは、色々なものに税金が使われていた。例えば、救急車は一回の出動に五万円かかり、日本では税金で補われているため無料だが、救急車の料金が自己負担の国では有料になってしまう。その他にも、子供の教育にも使われている。

日本では義務教育という制度があり、小学校から中学校までの授業料が税金によって無料になる。そして、それ以外にも道路や住宅などを整備する公共事業費や高齢者への年金、国を守るための防衛費、健康や生活を守る社会保障費などがある。その中で最も多く使われているのが社会保障関係費である。このように、身の回りでは多くのものが税金によって利用できるようになっている。

そして、税金は全ての国民から集められている。例えば、会社などで働いている人の給料から差し引いて納める所得税、自動車を所

有している人が納める自動車税、住んでいる市町村に納める市町村税、土地や建物を所有している人が納める固定資産税などがあり、私たちが大人になったら必ずといっていいほど払うようになる。しかし、時間が経つにつれ、日本では少子高齢化がすすんでいき、税を多く納める年齢層が減ってしまうことで消費税のように国に納める税を増やすため増税される税もあり、このままでは私たちの後の世代の負担が大きくなってしまふ。そのためにも今、これらの税のおかげで無償で色々なものを利用できる私たちは、お金を無駄にしないよう最大限活用していくことが大切だと思った。

税金は私たちの身近にたくさん使われていること知って、テレビで税金の話題を見てもあまり考えることはなかったが、どうすればその問題を解決できるかなどを考えるようになった。そして将来、自分たちが支えられる側ではなく、社会人になり支える側になった時、「今の世代の子供たちやお年寄りのために」と恩返しできるようにしたい。